

2024 年 3 月 8 日 齋藤大臣訓示

東日本大震災から、まもなく 13 年を迎えます。この震災によりかけがえのない多くの命が失われました。最愛の御家族や御親族、御友人を失われた方々のお気持ちを思うと、今なお哀惜の念に堪えません。

私は、経済産業省在職時に、電力基盤整備課長を経験していたため、原発事故以来ずっと福島状況を注視してきました。経済産業大臣を拝命してからも既に 3 回福島を訪問し、来週 3 月 11 日に福島県で行われる追悼復興祈念式典に参加する予定です。

職員の皆さんにおかれても、この機に改めて、東京電力福島第一原子力発電所の安全かつ着実な廃炉、そして福島の復興を成し遂げることが、経済産業省の最重要課題であると心に刻んでいただきたいと思います。

福島第一原発の廃炉は、世界にも前例のない技術的難易度の高い作業です。特に今年は、その最難関の取組である燃料デブリの取り出しに向けて、試験的取り出しに着手する予定です。今後も技術の開発や分析体制の構築など、責任を持って取り組んで参ります。

廃炉を着実に進めていくために、ALPS 処理水の処分は避けて通れない課題です。昨年 8 月以降、現在 4 回目の海洋放出を実施しています。これまでのところ、モニタリング結果から、計画どおり安全に放出されていることが確認されています。引き続き、安全性の確保、風評対策、なりわい継続支援に全力で取り組んでまいります。

日本全国での応援消費を一層広げるため、経産省では、「三陸・常磐ウィークス第 3 弾」を実施しています。私も、省内の若者と、ヘルシーで美味しいサンマのポーポー焼き等の入った幕の内弁当を一緒に食べました。1,100 者を超える企業・団体に参加いただいている「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」、これを活かすべく、経団連にも社食で食べてください、販売促進イベントを開いてください、と呼びかけました。皆さんも自ら食べるだけでなく、産業界はじめ周囲の方々に積極的に応援消費を呼びかけていただきたいと思います。

原子力災害被災地域に目を転じると、昨年 11 月にすべての復興拠点で避難指示を解除しましたが、原子力事故の爪痕はいまだに色濃く残っています。

昨年末に大熊町・双葉町の帰還困難区域を訪問したところ、草木が伸び、家屋は荒れ、震災が起きてから時間が止まったかのように見えました。

「早く自宅に帰りたい」という住民の方の思いに応えるため、まずは、特定帰還居住区域の整備を着実に進めなければなりません。そして、将来的な全ての帰還困難区域の避難指示解除と復興に向け、全力を尽くしていきましょう。

避難指示を解除した地域においては、事業・なりわいの再建、そして、新たな産業の創出。これが課題となります。「働く場」の確保といえ、経済産業省の真骨頂であり、福島復興推進グループだけの仕事ではありません。どの部署にいたとしても、自分に何ができるのか、常に考え、行動に移していただきたいと強く思います。

特に、福島浜通り地域においては、震災以降 400 件を超える事業者が立地を決定しており、産業振興が着実に進展しています。また、南相馬市ではロボット・ドローン、浪江町では水素、広野町は地中熱を含むエネルギーなど、新たな産業の芽が出つつあります。企業立地・産業集積についてはまず福島を第一に、研究開発や実証・実用化についても、福島国際研究教育機構（F-REI）や福島の実証フィールドもぜひ積極的に活用してください。

また、映画をはじめとした芸術は、地域の誇りとなって被災された方の心を繋ぐとともに、新しい人の流れや価値を生み出し、復興を加速する力を持ちます。先日、芸術文化を通じた復興に向けた有志の取組について、若手から直接報告を受け、真摯に生き生きと取り組んでいる様子を見て本当に嬉しく感じました。我こそはという思いを持った多くの若手の皆さんが取組に加わることを期待しています。幹部の皆さんも、若手職員の挑戦を後押しするようお願いします。

福島の復興は、まだ道半ばです。福島第一原発の廃炉、中間貯蔵施設の除去土壌の県外処分に向けた対応など、長い時間のかかる困難な課題を克服していくことが必要です。福島の復興を成し遂げるその日まで、経済産業省として責任感を持ち、粘り強く着実に前へ進めていきましょう。

そして、東日本大震災の対応で得られた教訓を風化させることなく、能登半島地震をはじめとする自然災害への対応にも、活かしていきましょう。

「未来に誇れる日本を作る。」これが、経済産業省のミッションです。福島の復興なくして、未来に誇れる日本はあり得ません。経済産業大臣に就任して以来、福島復興に携わる職員と一緒に仕事をして、本当に皆さん一人一人が真摯な気持ちで、精一杯取り組んでいることを実感しています。福島の復興を実現するその日まで、職員の皆さんが、この情熱を持ち続け、困難を乗り越えていくと私は信じています。ありがとうございました。